

人工知能×アダプティブ・ラーニング！クラウド型学習システム「すらら」 アクティブラーニング先進校 桐蔭学園の3校で一斉導入 3校合計1,350名以上が一つの教材で、個々の学力に応じた学びの実現

株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦）は、学校法人桐蔭学園（所在地：神奈川県横浜市青葉区、理事長：平岩 敬一）の中学生・中等教育学校前期課程全員に、個々の生徒の理解度に応じた学びによる効率的な基礎学力の向上を目的に、クラウド型学習システム「すらら」を4月から提供しています。

桐蔭学園の中学生は、中学校男子部、中学校女子部、中等教育学校前期課程の3校に分かれており、合計1,350名以上が在籍しています。今回は、この3校で一斉に導入をすることになります。

桐蔭学園は、神奈川県横浜市青葉区にある34万平米を越える広大なキャンパスに、高校と合わせて約5,000名が学ぶ学園です。「自由・求学・道義・愛国」という4項目の建学の精神に加え、平成26年の創立50周年を機に「自然を愛し、平和を愛する国際人たれ」という一項を加え、「自ら考え判断し行動できる子供たち」の育成を重要ポイントとした教育を実践しています。

創立以来「真のエリートの育成」を目指す同学園は、時代の変化を見据え、知識の獲得のみにとどまることなく、考える力を兼ね備えた人材の育成に向け、アクティブラーニング型授業の展開をはじめとする先進的な教育への取り組みで知られています。

この度の「すらら」一斉導入は、アクティブラーニングの実践や進学実績向上の基盤となる、全生徒の基礎学力の向上が目的です。基礎学力の向上のためには、生徒個々によって異なる学力に応じた学習機会の提供が不可欠であり、特に生徒数が多い同学園においては、幅広い学力層に対応できるアダプティブな取り組みが求められていました。

従来行っていたプリントによる一律課題と一律復習の実施に代えて「すらら」を活用することにより、学年ごとの課題に応じ、朝の時間を利用したWeb上での小テスト、小テスト結果に応じた個別課題の復習、授業における個々に難易度の異なる問題演習の実施が可能となり、一人一人に対応し幅広い学習機会を提供することができます。

【運用の中心となるICT教育推進センター長 林教諭のコメント】

本校では社会につながる学び、深い学びを目指してアクティブラーニング型授業を行っております。アクティブラーニング型授業を行っていくためには、ベースになる知識・技能の習得が重要になります。ひとりひとりの生徒が確実に知識・技能を身に付けるために今回、すららネットを導入しました。すららネットでは、生徒に対して一律の課題ではなく、一人一人の理解度に応じた課題を課すことが出来ます。この「アダプティブ」が本校がすららネットを導入した最大の理由です。

「すらら」は今後も、幅広い学力層にアダプティブな対応ができるという特徴を生かし、生徒一人一人に応じた効果的な学習環境の提供に寄与していきます。

<本件に関するお問合せ先>
株式会社すららネット 広報担当 e-mail : support@surala.jp
TEL : 03-5283-5158 FAX : 03-5283-5159

■クラウド型学習システム「すらら」とは

【学習範囲】 小学1年生～高校3年生までの学習指導要領に準拠

【対応教科】 英語・数学(算数)・国語

【利用者数】 約50,000名(2017年12月末日現在)

【特徴】

○Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1つの単元は10から15分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。

しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

○Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

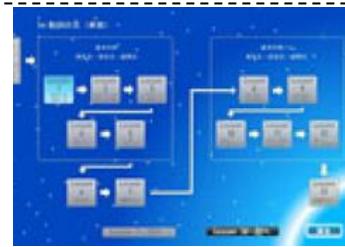
○Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでどこまでの学習をするかといった「月1回の目標設定」や、つまづいているところがないか「週1回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、クラウド型学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

<参考>これまでのeラーニング教材の大半は以下の3パターン

1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ
「理解」にはすぐれているが「反復」の部分がないためやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、比較的意識の高いお子様でないと、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないため、学力の高い生徒でないと一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ
非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の"次世代型教育システム"です。



■「すらら」の“アダプティブ・ラーニング”機能

生徒の解答結果から独自のアルゴリズムにより苦手部分を分析・特定し、生徒それぞれに最適化した学習すべき解説や問題を自動で提示する機能。学習者が苦手分野を自分で克服できるようにする。

■「すらら」における“人工知能”

AIが生徒の学習データに基づき先生の替わりに生徒と対話を行う機能「AIサポーター」を搭載し、生徒のモチベーションに与える効果について慶応義塾大学 中室牧子研究室と共同研究を実施中。

■ 株式会社すららネット 会社概要 (2017年12月末日現在)

- 設立：2008年8月 ○ 資本金：27,279万円 ○ 所在地：東京都千代田区内神田
- 事業内容：クラウド型学習システムによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
- 会社URL：<http://surala.jp/>
- 受賞歴：
 - ・第9回日本e-Learning大賞 文部科学大臣賞(2012年)
 - ・Japan Venture Awards 2014 中小機構理事長賞(2014年)
 - ・第2回「日本ベンチャー大賞」社会課題解決賞(審査委員会特別賞)(2016年)
 - ・第8回「千代田ビジネス大賞」大賞(2016年)
 - ・「東京都革新的サービス」優秀賞(2017年)
 - ・「SDGsビジネスアワード2017」スケールアウト賞(2017年)
 - ・「世界発信コンペティション2017」優秀賞受賞(2017年)